

# 『教会歴史取材承諾書』

## 訓練資料

### 指示

- 取材の際、すべてのセクションを記入して取材同意書を作成します。
- 承諾書は、ナレーター（語り手）が各セクションに記入するような形式で書かれています。ただし、ナレーターに質問しながら承諾書を埋めていくのが一般的に最も簡単です。ご注意ください：『教会歴史取材承諾書』では、インタビューを受ける人は「被取材者」と呼ばれます。すべての訓練資料において、この人物は「ナレーター」と呼ばれます。

### 「被取材者（ナレーター）の情報」セクション

取材を受ける人の連絡先情報を入力します。その人の氏名は、姓と名の二つの欄に分ける必要があります。ナレーターの正式な名前を「氏名」欄に入力する必要があります。ナレーターが断定した最も完全に適切な形式で入力します。また、該当する欄に個人の電話番号、メールアドレス、郵送先住所も入力します。このセクションには、三人のナレーターの情報を入力することができます。三人以上に取材する際は、追加の承諾書を使用してください。

ラテン文字以外を使用する名前もあるでしょう。「氏名」欄には、その言語の適切な文字を使ってナレーターの名前を入力します。その際は、ローマ字表記の名前も含める必要があります。例えば、キム・ミジョンは、Kim 김, Mi-Jeong 미정と入力することができます。

### 「取材情報」セクション

取材の記録日または記録予定日：取材を記録した日付を入力します。西暦（4桁）-月（2桁）-日付（2桁）という形式を用います。

記録場所：取材を記録した町や国を入力します。該当する際は、市区町村といった詳しい情報も含めます。二つの場所（電話による取材）で記録した取材については、両方の場所と、当事者を繋ぐのに用いたテクノロジーを記録します。

重要性：教会歴史におけるナレーターの役割を説明してください。別の言葉で言えば、なぜこの人を取材するのかを説明します。

### 「承諾条件」セクション

承諾条件セクションには、承諾の法的条件が記載されます。これらの条件は、記録を共有するというわたしたちの取り組みを制限することのないよう、非常に広範囲にわたる使用権利を教会に与えることを意図しています。録音は教会の製品であり、教会が著作権を所有しています。ナレーターは教会に対し、自分の名前、画像、声、肖像、個人情報を使用する権利を許諾しています。承諾書へ署名することで、ナレーターが再度自らの話をするのを制限することはありません。しかし、ナレーターは取材中に行われた録音に対して何の権利も所有しません。教会歴史部の記録保管者との協議なく、条件の変更は一切行うことができません。

写真や文書など、追加の記録を入手する際には『寄贈承諾書』を使用してください。

## 「署名」セクション

教会代表者とは、教会歴史部によって承認を受けて取材を実施する人物を指します。同意日とは、最後の署名が承諾書に書き加えられた日付を指します。

ナレーターとは、取材を受ける個人を指します。各ナレーターの出生年を含めてください。これは、同姓同名の個人を特定し、区別するために用いられます。会員記録番号（MRN）は、出生年を伝えたくない人の代替手段として用いることができます。記入された情報は保護されない上、教会に対して個人情報保護の問題を引き起こす可能性もあるので、実際の誕生日を記入しないでください。三人のナレーターが署名できるスペースがあります。三人以上に取材する際は、追加の承諾書を使用してください。